

令和6年度
足立区青少年委員会
ブロック教育懇談会記録

足立区青少年委員会

目次

1・2ブロック	1ページ
3ブロック	3ページ
4ブロック	6ページ
5ブロック	9ページ
6ブロック	17ページ
7ブロック	18ページ
8ブロック	21ページ
9ブロック	24ページ
10ブロック	28ページ
11ブロック	31ページ
12ブロック	35ページ
13ブロック	40ページ

令和6年度 足立区青少年委員会 第1・2ブロック教育懇談会

開 催 日	令和6年6月20日(木)	会 場	東京芸術センター 天空劇場
時 間	午後5時45分～		
参 加 者	宮城小学校・江北小学校・扇小学校・江南中学校・江北桜中学校 各学校の校長先生・副校長先生・開かれた学校づくり協議会会長・ PTA 会長（江北小学校については父母の会会長）・青少年委員 PTA（父母の会）会員の方々・地域の方々		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開式の辞 2. 青少年委員会会長挨拶 3. 来賓挨拶 4. 来賓紹介 5. 講師紹介 6. 講演 7. 質疑応答 8. 講評 9. 花束贈呈 10. 閉式の辞 		
テ ー マ	災害について考えてみる【東日本大震災からの教訓】		
<p>【懇談会記録】</p> <p>今を大事に生きること、人と人との繋がりを大事にしたいと思い第一ブロック・第二ブロック合同で「災害について考えてみる」をテーマに教育懇談会を開催いたしました。</p> <p>震災支援として宮城県へ赴任された矢部直意先生を講師にお迎えして、津波が中学校に押し寄せる映像や生徒たちの避難誘導にあたった体験談や避難生活の様子などを知ることができ、地震・豪雨災害の多い日本で改めて「防災意識を高める事」の重要性を学ばせていただきました。そしてこの震災で日本中・世界中から多くの支援物資や温かい気持ちが届けられたことも知り、人と人との繋がりの大切さを再認識できました。</p> <p>「君たちは授業で学べない、たくさんのことを学びました。 人の命の大切さとはかなさ、当たり前で過ごしていた日々がどれほど貴重であったか、どれほど多くの人に支えられて人は生きていたことか。 家族の大切さ そして無償で手を差し伸べてくれる人々の暖かさ 10年後、20年後に君たちが戸倉地区の復興の原動力になることを確信しました。」 この言葉は講演の最後に紹介された、卒業式で校長先生が生徒に向けた言葉です。 とても印象的な言葉でした。 当たり前で過ごしている日々は決して当たり前ではなく、一日一日を大切に生きて</p>			

いくことがいかに重要であるかを教えていただきました。

東日本大震災当初は多くのメディアにも取り上げられていましたが、年月が経つほど風化されつつあるように感じます。この講演を機に震災での出来事は風化させず多くの人たちへ、そして次代を担う子供たちへ繋いでいくことが大切ではないかと思いました。

いつ、何時起こるか分からない自然災害に対して、今私たちが出来ることは何か考え行動していきたいと思います。

令和6年度 足立区青少年委員会 第3ブロック教育懇談会

開催日	令和6年7月5日(金)	会場	西新井センター2F会議室	
時間	18時30分～20時30分			
参加者	足立区教育委員会	教育長	中村 明慶 様	
	足立区教育委員会	青少年課長	物江 耕一郎 様	
	足立区青少年委員会	会長	高橋 将郎 様	
	足立区青少年委員会	副会長	嶋田 健一 様	
	足立区青少年委員会	第4ブロック長	馬場 千世 様	
	学校名	学校長	PTA会長	青少年委員 敬称略
	興本扇学園	稲葉 守朗	市川 一	石鍋 恵(扇中) 伊藤みちこ(興本小)
	本木小学校	井出 誠	都原 猛	高橋 徳行
	寺地小学校	松下由紀子	左 喜子	阿出川 忍
	第六中学校	鶴飼 康成	河野 盟(副会長)	
	西新井小学校	加納 和彦	金子 雄哉	丸山 昌子
	西新井第一小学校	秋吉 かおり	猪股 健三	石鍋 浩
	第五中学校	秋元 聡	高城 純	土方 紀昌 (計26名参加)
会議次第	(司会 土方青少年委員)			
	1 足立区青少年委員会	第3ブロック挨拶	丸山 昌子	
	2 足立区青少年委員会	会長挨拶	高橋 将郎 様	
	3 足立区教育委員会	教育長	中村 明慶 様	
	4	来賓紹介	司会	
	5 乾杯 興本扇学園	学校長	稲葉 守朗 様	
	6	テーマ発表	各学校	
	7 閉会のあいさつ	青少年委員	石鍋 浩	
テーマ	『各校の現況と方針』			

〔懇談会記録〕

令和6年度の第3ブロック教育懇談会は、ご来賓に足立区教育委員会教育長中村明慶様、青少年課長物江耕一郎様、青少年委員会会長高橋将郎様、青少年委員会副会長嶋田健一様、青少年委員会第4ブロック長馬場千世様をお迎えし、西新井住区センターにて『各校の現況と方針』をテーマとして開催し、各校の校長先生、PTA会長にご出席いただき開催しました。

1 丸山ブロック長 挨拶

教育懇談会の開催にあたり、ご来賓をはじめ出席者へ感謝の言葉が述べられました。

2 青少年委員会会長高橋将郎様よりご挨拶

現在、各ブロックの懇談会に参加していますが、コロナ禍明けとはいえ以前と同じような行事等を行うことが難しくなっていると聞きます。学校運営は極端なことを言うと地域がなくても運営できますが、学校、家庭、そこに地域の力が必要であるという思いで今後、時代に合った活動、コーディネータとはどういったものかを皆さんと考えながら青少年委員活動を進めていきたいと思っております。

3 足立区教育委員会 教育長 中村明慶様よりご挨拶

本日の出席者に対して日頃の活動へ感謝の言葉が述べられました。

区では子供たちに対して生活と健康の実態調査を行っており、先日経過報告がありました。レジリエンスを育てる、あるいは伸ばすには、挨拶が大事であること。また、ロールモデルとなる大人たちと出会うこと、親以外の方からのケアを受けられる環境というのが、子供たちが厳しいところで我慢や跳ね返せる力になるということです。コロナでしばらく途絶えていたとしても、徐々に再開し、皆さまにも行事に参加頂き、イベントを企画、運営して頂きたいと思えます。行事に子供たちが参加し、様々な方との出会いを通じて、挨拶プラス声をかけてもらう・気にかけてもらう等が子供の心の成長に繋がるものと思えます。本日は懇談を通じて様々な話を聞けることを楽しみにしています。

4 来賓紹介

5 乾杯 興本扇学園 学校長 稲葉 守朗 様

6 各校自己紹介及び校長先生から各学校の現況報告。

第六中学校 鵜飼校長先生

六中の状況は、子供たちは良く頑張っています。その中で「伝えること」を大切なテーマにしています。自分の思いやこれまでの経験を伝えることは頭使うし、そのための勉強をしないと伝わらない。新しい取り組みではないが、朝読書を始めました。伝えるという点では、先日開催した修学旅行の保護者説明会は、一般的には担当教員がするものですが、2部制にして、第1部を生徒で行いました。大変良い経験になったことと思えます。また、3年生は修学旅行を終えて2年生に対しての報告会を行ない。2年生は職場体験を終えて1年生に向けた報告会を行う。さらに1年生は9月の魚沼自然教室を終えたら6年生に教えて欲しいということをお話しています。花いっぱい運動や挨拶運動も地域の人を招いて行っています。夏にDIYということで教室のドアのペンキ塗りを実施する予定であります。

興本扇学園 稲葉校長先生

本校は来年度20周年を迎えます。少しずつ周年行事の準備を始めているところです。足立区の中でICT推進校でありましたが、昨年9月よりは文科省の指定を受けています。今年度は、ICTプラス、健康教育の2本立ての予定です。今は昔と違い、歯を残す6歳臼歯、12歳臼歯が特に大切と言われており、これをどうやって守るか?衛生部も必死にやっています。体の各種臓器を作るのはすべて口から入ってきたもの、その口腔内を大切にすることが、子供たちの人生の宝物になるという視点に立ってやっています。以前は80歳で28本中22本歯を残そうが、100歳で28本残すと言われていました。子供たちの健全育成に何が大切かを校長が発信し、体制を組み実行していきたいと思えます。

本木小学校 井出校長先生

本校は、本年148周年を迎えます。経営方針としては歴史ある伝統の継承と発展をキーワードとして、目指す学校像、キャッチフレーズは、笑顔、挨拶、思いやりが溢れる本木小学校。まずは笑顔で安全、安心に学校に通えるように。また、挨拶は大切なことで人として生きていく上で大事なことだと思え、これからも広めていきたいです。もう一つの「思いやり」本校は東京都から人権教育の推進校に指定されています。テーマは「自分も相手も大切に作る児童の育成。」相手はもちろんだが自分も大切にできるということです。学校のことを保護者や地域の方に知って頂くことが信頼の第一歩であると考えています。ホームページに毎日子ども達の様子をリアルタイムで発信しております。しかし、課題も沢山あり、教職員の働き方改革、子供たちの不登校や登校渋り、誰もが安心して居心地の良い学校になるよう、保護者、地域の方と連携して学校経営を進めていきたいと思えます。

西新井第一小学校 秋吉校長先生

本校2年目となり、地域の大先輩から本校の周り地域のことを教えて頂いております。

本校の自慢できるところは職員室の雰囲気が良いこと。良い意味で教員と子ども達の距離感が近いと

思っています。昨年、不登校や登校渋り子供たち居場所を作ろうと、手を使うゲームや折り紙等を用意し、校長室を開放しました。結果、校長室を卒業した子は6人になり、担任には言えない相談があると校長室を訪れる児童もいました。子どもの声を教員と共有し、不登校や登校渋りの子供たちを支えていこうと取り組んでいます。カウンセラー、隣のクラスの先生、養護教諭、校長室と子供が大人に相談ができればと考えています。本校にお越しの際は、是非校長室に立ち寄って頂きたいと思います。

寺地小学校 松下校長先生

今年度着任し、また足立区は初めてとなります。着任して感じたことのひとつに温かい地域柄であることです。地域を歩いていると子供たちから「先生こんにちは」や、自転車ですれ違う保護者が挨拶してくれます。素敵なおところだと感じています。今年度の学校方針は、笑顔で家に帰り、次の授業を楽しみずる学校を、と教員に話し、素直な子どもの笑顔や挨拶から励ましをもらいながらやっています。

合わせて進めているのが、体験学習をできるだけ多く取り入れたい。先日、東京交響楽団の皆様には体育館で演奏してもらいました。70人近くのプロの演奏家の「校歌の演奏」は感動でした。また、縦割り活動という上級生と下級生が授業外のところで行動を共にすること。各学級が素敵な出し物をし、下級生が困っていたら上級生がお手伝いをするとうい交流になっていました。今までであったものを引き継ぎながら子供たちのために協力してやっていきたいと思っています。

第五中学校 秋元校長先生

今年度五中に着任しました。前任者の生徒一人ひとりが主人公というテーマを掲げての学校運営はとても素敵なおこと、継承しつつ、学力向上はもちろん、自己肯定感を含め「生徒や保護者が五中で良かった。」と思えるような学校作りをしていきたいです。子供たちと直接関わるのは教員で、先生方が笑顔でないと学校は成立しない、報告・連絡・相談がきちんとできるような雰囲気大切に、また、本校は若い教員が多いので、やりがいを持って仕事ができるよう前向きな声掛けをしながら人材育成をしています。

本校はコミュニティスクールで地域の方々にお力添えを頂きながら学校運営しています。先日の運動会ではテントを購入してもらい、全ての生徒席にテントを張る熱中症対策が地域の方にも好評を頂きました。「新たな挑戦」を掲げフルスペックで実施し、実際に運営した教職員も生徒達も楽しかったのではないかと感じています。また、5月と11月のボランティア活動では、町会・自治会の要望を聞き実施できればと思っています。五中は、教職員や保護者以外に地域の方々に支えて頂いております。今後もお世話になりながら学校教育を進めていきたいと思っています。

西新井小学校 加納校長先生

本校はICT、防災教育の2つを特徴として掲げています。ICTは前任者の頃から興本・扇学園と切磋琢磨しながらお互いに東京都の指定を受け、また、足立区のモデル校となっています。

今年度先生たちは保護者に最初に言ったことは「先生は教えません」。教える又は教わろうではなく、子ども達は「今日ここやるよ」で、自ら勉強するスタンスです。ICTの力を借りながら、45分の授業のうち30分は子供たちに任せ、教員の出番5~10分、長くても15分。到底1年生でできるわけではなく、鉛筆の持ち方や書き方等は教えます。ただし、卒業するころには先ほど話したことがゴールとなるように各学年ではどのようなことが必要であるかを模索しています。防災教育で考えていることは、避難民として支えてもらう側ではなく、自分達が運営者として何が出来るかです。先日、地域の防災訓練に2年生と5年生が参加して良い経験をしました。夏休みには防災キャンプを企画しています。

7 石鍋青少年委員 閉会の挨拶

※「各学校の現況報告」は、各校児童・生徒の生き生きした姿を知ることが出来、また、教職員の頑張り、さらには地域との連携を通じた学校運営等の話が聞けた貴重な会となりました。

**令和6年度 足立区青少年委員会
第4ブロック教育懇談会**

開催日	令和6年7月1日	会場	梅島小学校 1階 ランチルーム
時間	18:30～20:00		
参加者	講師：東京みらい中学校 学校長 定野 司 様 来賓：教育委員会教育委員 倉橋 さとみ 様 教育委員会青少年課長 物江 耕一朗 様 青少年委員会会長 高橋 将 郎 様 青少年委員会副会長 関本 義 則 様 青少年委員会8B長 鈴木 奏 子 様 参加者： 第4ブロック小中学校 校長・開かれた学校づくり協議会会長・PTA代表 第4ブロック青少年委員 10名 (計41名)		
次第	1. 主催者挨拶 4ブロック長 馬場 千 世 2. 講師・来賓紹介 3. 講話 東京みらい中学校 学校長 定野 司 様 4. 質疑・応答 5. 総評 青少年委員会会長 高橋 将 郎 様 6. 閉会の辞 4ブロック青少年委員 山本 孝 志		
テーマ	「人を活かし、困難を希望に変える」		

【懇談会記録】

今年度第1回目は、「人を活かし、困難を希望に変える」というテーマに沿って、元足立区教育長でもあり現在は東京みらい中学校 学校長の定野様より講話を頂戴しました。以下に報告内容を記します。

◆— 定野様 講話要約 —◆

- ・令和6年4月1日に開校した「東京みらい中学校」の校舍写真を見ながら校舍紹介。
生徒は67名。学校の特徴として、校長室や職員室と言った区分けは無く「スタッフルーム」一つに集約、また美術室は「アートルーム」、理科室は「サイエンスルーム」などカタカナに統一して、通常の学校の色を排除している。
年間の授業数が少ない(通常1015時間→775時間)代わりに、楽しみながら学べるための「マイタイム」「Choiceタイム」などの新設課目や行事を充実。各フロアにたくさんの図書がある。下駄箱、給食、プール、中間期末テスト、通知書などは無く、通常の学校の色を排除している。
- ・「東京みらい中学校」設置の主旨
学校に通う事が困難な生徒の新たな学びの場として「学びの多様化学校」の枠組みと特徴を活かした中学校を設置する事で不登校という今日の教育課題、社会問題に対して取り込んでいく。現在「学びの多様化学校」は全国35校。
- ・子どもの悩み(不登校)
○どうして勉強するの？
○運動会はなんであるの？
○コミュニケーション
- ・具体的な取り組み
○不登校の子どもを持つ保護者だけではなく、関係者全てに不登校を理解してもらう事が大事。
「登校支援ガイド」
○未然防止・早期発見
「チューリップシート」「あだちっ子歯科健診」「子どもの健康・生活実態調査」
「施設のタイムシェア」
○学校以外の多様な教育機会の提供
「チャレンジ学級」「あすテップ」「居場所を兼ねた学習支援」「日本語学習ルーム」
- ・最後に改めて「東京みらい中学校」の特徴を紹介
○カリキュラムの特徴
○安心できる居場所
○多様なICTの活用
○好奇心を育む実践中心の社会的活動

★—— 総 評 ——★

青少年委員会会長 高橋様より、本日の講話の総評をいただきました。

「不登校という難しい課題の中、青少年委員としても協力したいと思っている。目を背けてはいけない。地域がアンテナを張り未然の対策・不登校の子どもを増やさない事が大切である。

青少年委員は地域のコーディネーターとして、自分が出来る事は踏み出して行こうと改めて感じた。」

★—— まとめ ——★

懇談会を終えて

懇談会を終えて感じた事は、不登校の子どもが増えて1000人を突破している現実から、不登校になってからの対策も大事だが、不登校になる前の未然の対策も大事だと感じました。前触れもなく突然不登校になるとのお話にも、不登校になっても動揺しないように知識を持っておく事の大切さも学びました。私たち青少年委員も学校や地域と協力して、できる範囲での活動をしていかなければならないと強く感じた懇談会でした。

★当日の懇談会会場の様子です。

◆東京みらい中学校 学校長 定野司様講話の様子◆



◆熱心に聞き入る参加者の様子◆



以上

令和 6 年度 足立区青少年委員会 第 5 ブロック教育懇談会

開 催 日	令和 6 年 7 月 9 日 (木)	会 場	足立小学校 4F ランチルーム
時 間	18:00～19:30		
参 加 者	第四中学校、第十一中学校、弥生小学校、弘道小学校、弘道第一小学校、足立小学校 各校校長・PTA 会長・開かれた学校づくり協議会会長・青少年委員 足立区教育委員会 教育委員 久保田様 足立区教育委員会学校運営部 青少年課 管理調整係 係長 白石様 青少年委員会 高橋会長、遊馬副会長、第 6 ブロック長 早川様 出席者 26 名		
会議次第	開会の辞、会長挨拶、教育委員会挨拶、来賓紹介、各校紹介及び学校の現状、懇談会、総括・講評、閉会の辞		
テ ー マ	コミュニケーションでつなげよう、子供たちの未来！		

[懇談会記録]

1. 開会の辞 足立区青少年委員会第 5 ブロック長 前島 政章 委員

スケジュールの関係で小学校 PTA の会合と重複してしまった点についてお詫び申し上げます。

今回から各校の開かれた学校づくり協議会会長をお招きしている。足立小学校を会場として「コミュニケーション」をテーマとして様々な情報を共有しつつ、新任各位の顔合わせの機会として頂きたい。

2. 会長挨拶 足立区青少年委員会会長 高橋 将郎 委員

東綾瀬小学校担当し、本年度より会長となりました。昨年度は 70 周年記念事業として相馬の語り部、五十嵐さんを招き、皆さんに講話を聴いて頂いた。先に実施しているブロックの懇談会では、震災の際に派遣された先生の話があり、震災当時の重い記憶が話題に上がっていた。

様々な場面において円滑なコミュニケーションを実現することは容易な課題ではなく、個人活動や環境だけで解決できることばかりではない。地域、学校、保護者が相互協力して進めるべきと考えている。

一方、コロナからの継続課題として、役員会でも話題になったが、校長先生がコロナからの復活でまだ悩みが多い様子を見聞している。もうコロナ前には戻れないと考えている校長先生もいる。前と同じ状態に戻すという視点だけでなく、現状をより良くするために各校に所属する青少年委員を活用してほしい。

直接的な協力ができない青少年委員ではあるが、地域のコーディネーターとして、委員活動を通じて何らかの協力ができたらと考えている。改めてこの場で各位と意識の共有をできることを楽しみにしている。

3. 来賓挨拶 足立区教育委員会 教育委員 久保田 様

これまで教育委員として参加する機会がなかったため、活動の実態を知る機会がなかった。様々な統計値などにより間接的に学校や児童の様子を想像することはあるが、学校と関わる地域と保護者との課題は見えてこなかった。この場に参加させて頂き、勉強の機会とさせて頂きたい。

「コミュニケーション」の範囲は広く、コミュニケーションの複雑化や多様化の中で子供たちができるだけ健全に成長していける社会が求められている。参加の皆様から様々な意見を頂きたい。

4. 御来賓紹介 金野 委員

5. 各校紹介 各校委員から校長、PTA 会長、開かれた学校づくり協議会会長を紹介

6. 懇談会

6-1) テーマに沿って「コミュニケーションの現状と課題」

【足立小】

【加藤校長】

4月に足立区に初めて着任した。住まいは荒川区で、足立区は初めてであるが、以前には葛飾区での経験もある。この3か月を通じて、子供たちの仲の良さに関心している。例えば、傘を畳めない年少者を年長者が支援する様子を見ると、良い関係が築かれていると感じる。

毎朝の挨拶当番や地域の協力を得て、コミュニケーションの推進を行っている。また、コロナ以降の今年から縦割り班を復活させ、1年生から6年生が給食を持ち寄って一緒に昼食をとる活動を再開している。

しかし、3年間のブランクの影響で、子供たちはやり方を忘れていることが多いため、現在の子供たちに合わせた形で活動の定着を図っている。小学校の子供たちの良好な関係性を活かしながら、今後も活動を支援していきたいと考えている。

【松田 PTA 会長】

大人同士のコミュニケーションが不足している印象を持っている。そこで、子供のイベントをきっかけにして大人のコミュニケーションの機会を企画している。保護者が参加するスポーツ活動が従来からコミュニケーションの機会となっていたが、現在は参加者が不足する状況も見受けられる。具体的な活動内容は HP 等にも掲載しているので、参考にしてほしい。

【弘道第一小】

【鈴木校長】

異学年の生徒間の交流が素晴らしいと感じている。一方で、同クラス内のトラブルが増加している課題がある。コロナ後になり、関わる機会は増えたものの、いざこざ問題を解決する経験が不足していることが一因であり、この現象は保護者においても共通している印象である。

大人が子どものトラブルに介入しすぎず、地域の子供達との関係性の中で解決を図れるようになっていきたいと考えている。

コミュニケーションのテーマとして、Z世代に対する心がけ「おひたし」を紹介します。

「おひたし」とは、

- ・おこらない
- ・否定しない
- ・たすける
- ・具体的にしてあげる

Z世代の前世代としては、人の心を開く鍵の条件はシンプルで、正直、誠実、真心といった態度がキーワードであった。しかし、Z世代にはその外側にもう一つ困りがある。その困りの鍵になるのは「相手意識」だと思っている。Z世代がどのように感じ、どのように考えているのか、その鍵を開けないと、Z世代の心を開いて深く知ることができない。

今の子供達が何世代と呼ばれるのかは解らないが、コミュニケーションをとるには年長者からの相手意識が重要だと考えている。

【吉野 PTA 会長】

PTAとしてではなく、個人的な想いとして子供のマスクが気になっている。表情を判断する経験を失っていると感じている。しかし、感染予防という観点からは、強制的に外させるわけにはいかない。

一つ提案として、絶対にマスクを外す給食の時には、黒板を向いて食べるのではなく、顔を見合わせて給食を食べさせてあげたい。良いも悪いも体験として、グループで給食を食べさせたいと考えている。

【大林開かれ会長】

確かにZ世代は扱いにくいと感じる機会も多く、指導や注意を伴う事業活動を通じて本来業務以外の配慮をせざるを得ない。叱る、叱られる経験から重要なことを学んできた世代の自分としては、大変やりにくい。

加齢とともに自身の会話力の低下も感じているため、会話で意志を伝える能力も低下している。会話でコミュニケーションをしても、もう一言が足りないことから大きな事故につながることもある。「撮って来い」と言われて「取って」しまい、感電事故が発生したケースもある。

会話を通じてお互いの考えが一致していることが、質の良いコミュニケーションだと言える。保護者として何か問題や課題が発生したときには、メールや電話で済ませるのではなく、学校に訪問して顔を見てコミュニケーションするように伝えている。

【弘道小】

【井上校長】

様々な国・エリアにルーツを持つ子供たちが増え、多様化が加速していると感じている。昔は似たような家庭の子ども達が集まっていたが、多様化が進む中で、もはや学校だけではなく地域全体で子供たちを成長させていかなければ、孤立化してしまう児童が増えてしまうと感じている。

インクルーシブやダイバーシティが叫ばれているが、当事者や保護者の中には、コミュニケーションの必要性を感じない、もしくはコミュニケーションをしなくても生きていけると思っている人が増えているのかもしれない。過保護になり過ぎてしまい、もしかすると大切な何かを忘れてしまっているのではないかと感じている。

教育の場ではある種の不便さを共存させ、コミュニケーションをしなればできない教育内容を積極的に盛り込んでいく必要があると考えている。それに伴って、子どもも大人も、コミュニケーション不足が原因なのか、語彙力が不足している。

若い職員が甘いケーキを食べて「ヤバっ」という表現を使うことが普通になっている。自分自身の年代からすると「美味しい」でしょ？と思う。また、一緒にゲームをやっていて、ゲームに負けた子が上手でない相手にイライラして「死ぬ」と言ってしまう場面がある。そうではなく、「どうやったら上手になるの？」という会話につなげていけるようにしてほしい。

【伊藤 PTA 会長】

競うことで生まれるコミュニケーションを気にしている。コロナ前からもあったが、コロナをきっかけに、他人と比べない、みんな違ってみんないいという多様性の価値の行き過ぎた解釈が進んでいる気がしている。

自身の子どもの経験として、大縄大会で競うことで切磋琢磨し、ライバルとの勝ち負けの関係性の中で、健闘しあった相手の感情を理解する成長ができたと感じている。単学級になっていることから競うことが難しい現状もあるが、競う成長から相手を称えあう体験をさせてあげたいと考えている。

【山口開かれ会長】

私自身の感覚としても、皆さんと同じくコミュニケーションは大事だと思っている。しかし、コロナのせいでコミュニケーションの面でマイナスになるような期間が継続してしまった。スマホや SNS の普及もあり、コミュニケーションの環境や機会が変わってしまっているが、地域・学校・家庭のコミュニケーションの大切さを、子どもを中心に、私たち大人世代が活動の場面で伝えていかなければならないと考えている。

【弥生小】

【樋口校長】

皆さんのお話を聞いて重複していることが多いが、今感じていることは。平成世代の教員が、常識的に解るだろう・という場面で「解らない」反応を感じる機会が多い。事細かく説明、指導が必要な印象。

子どもたちは中学年や上学年の面倒見がいいと感じているが、逆に言うと、自分のことに関しては傷つきやすく、ほんの些細なことで傷ついてしまう。また、自分で解決できずに相談する相手が教員ではなく、自宅に帰って一人で悩んだり、学校に来られなくなったり、保護者に言ってもらうような行動が多い印象を持っている。

学校としては、自分で解決できるように自分の言葉で相談できる子どもにしていきたいし、保護者と共通意識を持ちたい。保護者との関係としては、5月に保護者面談を実施済みである。また、学校公開もしており、地域、保護者、子どもの理解を深めていきたいと考えている。

【大谷 PTA 副会長】

親としての考えではあるが、コロナの期間、子供は約3年間、家庭内でのみコミュニケーションを取る時間が長かった。気を使わない環境で身についた兄弟げんかのコミュニケーションの中で「死ね」という言葉が日常的に使われていた。仲裁には入るが、本人たち自身は、他人とは異なり、心の傷つき度合いが全く異なっていて、そのコミュニケーションを“普通”と考えて外の世界で振舞ってしまう可能性を感じている。失われた3年間をリハビリする期間は、恐らく倍以上の6年も必要だと感じている。

とはいえ、自分自身も成長途中であり、いつになっても失敗の毎日だと思っているが、失敗することは間違いではなく、失敗しても良いと子供に伝えていきたい。子どもたちの得意分野にはほめられる部分もあり、そこに加えて、さらにコミュニケーション能力を伸ばしていけるよう、親として関わりたいと考えている。

【高田開かれ会長】

挨拶を推進している。地域として学校の先生たちにも挨拶をするよう働きかけている。放課後子ども教室の活動でも、2、3年、4、5、6年で分けている。スタッフは子どもを見たら挨拶から始めるように指導している。挨拶しない子どもには帰宅するよう伝えるほどである。その中には保護者に告げ口するぞと言う子どももいたが、こちらは先生ではないから、いつでも保護者を連れてきなさいと言うと、子ども自身も反省して謝り、自発的に再参加するようになる。

不登校の話があったが、近隣の幼稚園や小学校1年のアンケートを取り、学校の不安が何かを可視化して、その結果を学校に提供している活動もしている。

【第 4 中】

【五明校長】

本年度、着任しました。ありきたりかもしれないが、挨拶を重視している。生活委員の 6 人の生徒が中心となり、8 時 10 分から 20 分までの間、挨拶声掛け活動をしている。週番の 6 人では足りないため、毎月 1 日は挨拶の日として全生活委員の 32 人の生徒が校門に立ち、挨拶活動を行っている。

中学生にもなると、あとけなさは薄れ、なぜ挨拶をするのかとの質問も出てくる。その時は、挨拶しなければどうなるかを考えさせることで、お互いが相手の存在を意識している証であることを自覚させている。

以前の学校での経験だが、中学 3 年生の時期にある入試に向けての面接練習で、志望理由を質問すると「見学のときに在校生の挨拶が多かった」と発言する生徒が多かった。その時、生徒本人に挨拶の重要性がわかったかを問うと、ハッとして自覚する生徒を見た印象が残っている。

しかし、思春期は恥ずかしさが先行して、なかなか挨拶が積極的にできない生徒もいる。子どもたちは挨拶活動の中でお互いの様子を感じ取りながら活動している。

生徒会でも対面給食の意見が出ているが、思春期で食べている様子を見られたくない生徒もいる。大人の価値観を押し付けるのではなく、自分たちで考えることを重視しつつ、子どもたちの成長を見届けたいと考えている。

【小原 PTA 副会長】

中学 3 年生の子どもがいます。小学校の時期に比べて、学校や地域活動、保護者との距離感が広がってきた気がしている。コミュニケーションがなくても良い、する必要がないと思っている子が多いのではないかと感じている。この離れてしまった距離をどう近づけるかを考え、保護者が一歩でも子どもたちと共通の関わりを持ち、学校に寄り添った活動を念頭に活動している。

保護者が継続可能に活動を定着させるためにも、生徒が地域や地元企業の活動に関わりを作ることができれば良いと考えている。

【高田開かれ会長】

第四中学校は学校選択制度の影響もあり、様々な足立区エリアから子どもたちが入学している。開かれた学校作り協議会の認知を高めるためにも、子どもたちの顔を見るためにも、朝の挨拶活動を実施している。3 年生にもなると大きな声で挨拶をしてくれる。

やはり、1 年生の不登校が増えている。第四中学校は小中連携部会があり、1 年生の生徒にアンケートを 7 年継続して実施している。これにより、子どもの不安を可視化し、不登校の原因を分析して学校と共有し、不登校の生徒を減らしていきたいと考えている。

【第 1 1 中】

【高田校長】

何事にも、子どもも大人も、コロナの影響が非常に大きいと実感している。中学生になると、バーチャルな空間とリアルな対面空間のコミュニケーションが多くなり、デジタルが圧倒的に多い機会を持つ。これはもう変えようがない環境だと考えており、その活用方法を模索している。本年度、本校では「みんな仲良くなるう」というテーマのもと、エンカウンター講師を招き、誕生日順に並ぶなど、様々なゲームを通じて生徒が盛り上がり体験する活動を行った。

この活動を通じて、行事の前後において対話的・親和的なクラスを作るための関係性を教わったことが良かったと考えている。コミュニケーション能力が向上したかどうかは不明だが、仲良くなるには対話・会話が必要であることを生徒が体験できたと捉えている。

トラブルもデジタル空間で圧倒的に多い。保護者が撮影した写真を子どもが共有し、それを加工して自身のInstagramに投稿するような安易な情報流出の行動が起こっている。

デジタルを否定することはできないため、積極的に活用する方針として、4月から「伝える」をテーマに、3年生から2年生、2年生から1年生、1年生から3年生に対して、自身の伝えるテーマを理解してもらうためのクロムブックを使ったプレゼン活動をしている。

【山本 PTA 会長】

自分自身が人見知りで、初対面の方や大勢の場面で萎縮してしまう内面を秘めている。子ども達も同じだろうと感じた時、彼ら自身にも自分を知ってもらう活動を定着させたいと思った。その一環として、自身のニックネームを子ども達に伝える活動を行ってきた。自分を知ってもらうことが、他の人を知るきっかけとなり、これがコミュニケーションの始まりだと思っている。

また、雨の災害は予測できるが、地震は予測が難しいため、町会や自治会が対策や計画を立て、隣近所の人とのコミュニケーションを重要視している。コミュニケーションは命を守ることに繋がると伝えたい。

【大神田開かれ会長】

10年前に青少年委員として活動し、5・6年前には「開かれた学校作り協議会」にも参加していました。その間にコミュニケーショントレーナーの資格を取得したが、今日のテーマと皆さんの発言は非常に良い内容だと感じた。

対人コミュニケーションで重要な点は2つある。

・五感を使うこと

触感はなかなかないが、目で見て肌感覚で感じることもコミュニケーションの一部である。

・主体は相手であること

どれだけ話しても、相手に受け取ってもらえるかが大事である。

ここにいる人たちは、「雨の音を聞いてどう思うか」というお題でコミュニケーションができるが、子どもたちは経験値が少ないため会話が続かない。発音の違いでも理解が変わるとい世代間の違いがある。

子どもたちには、まず声をかけ続けることがコミュニケーションの始まりである。その後、相互のやり取りが始まり、相手が言っていることを考えるようになる。この5年間は11中に関わっていなかったため、現在の子どもたちのことをまだ理解しきれていない。しかし、以前から11中の生徒は挨拶ができることで長らく認知されている。挨拶ができれば、親しみを持った対応を推進する下地が整っている。

すべてが違って当然だが、コミュニケーションをすることで生きていけるのだと共有できた。

6-2) 感想等

【早川委員】

綾瀬地区の6ブロックから。皆さんの話を聞く前は、地域性があるかと想像していたが、内容を聴いていると、やはり課題や状況は共通している事を理解した。

一番驚いたのは、小学校にエレベーターが設置されている事であった。

6-3) フリートーク・質疑

【佐藤委員】

皆さんの発言から、以下の点で認識を共通にできたと感じました。

挨拶は非常に重要であり、相手を認めることにつながる。同級生間でのトラブルはあるが、下級生との交流は良好である。

対面でのコミュニケーションと五感を使ったコミュニケーションが大切である。保護者はトラブル解決の経験が不足しているため、その支援が必要である。

現在、給食は黙食となっているが、これをグループで食べる形に戻したい。ゲームの画面を通じてコミュニケーションはできるが、対面でのコミュニケーションが苦手な子どもたちが増えている。

相手から信頼を得るためには、聞き上手になることが重要である。

Q 嫌な人とのコミュニケーションのコツなどあれば（前島委員）

【久保田教育委員】

仕事と思えば好き嫌いはないのが大人の行動だと思っている。

子どもについても相手の心を理解した対話を大切にしている。

7. 総括、講評 足立区青少年委員会副会長 遊馬 委員

挨拶は常に重要視している。9中の生徒には立ち止まって顔を見て挨拶するように指導している。また、小学校の児童への声掛けも、立ち止まって笑顔で挨拶することを心掛けている。コミュニケーションは挨拶から始まると考えているため、皆さんとの活動の中でもこの意識を継続していきましょう。

8. 閉会の辞 櫻田 委員

様々な体験談、活動を聞かせて頂いた。参加の皆さんにおいて、今回の懇談内容が、日常の活動、生活の中で、何らかのヒントや参考になればと思っている。ご参加ありがとうございました。

令和6年度 足立区青少年委員会 第6ブロック教育懇談会

開催日	令和6年7月18日(木)	会場	長門小学校 体育館																														
時間	18:00~19:00																																
参加者	足立区教育委員会 教育委員 土肥和久氏ほか来賓 綾瀬小学校・東綾瀬小学校・東加平小学校・東湊江小学校 北三谷小学校・大谷田小学校・長門小学校・東綾瀬中学校 蒲原中学校【9校の校長・副校長・PTA会長・青少年委員】																																
会議次第	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">司会</td> <td style="width: 60%;"></td> <td style="width: 25%;">三枝委員</td> </tr> <tr> <td>主催者挨拶</td> <td>6ブロック長</td> <td>早川邦夫</td> </tr> <tr> <td>会長挨拶</td> <td>足立区青少年委員会 会長</td> <td>高橋会長</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶</td> <td>足立区教育委員会 教育委員</td> <td>土肥和久氏</td> </tr> <tr> <td>来賓紹介</td> <td></td> <td>三枝委員</td> </tr> <tr> <td>講話</td> <td>長門小学校長</td> <td>細山校長</td> </tr> <tr> <td>講話</td> <td>蒲原中学校長</td> <td>菊本校長</td> </tr> <tr> <td>PTA代表所見</td> <td>小P連第6ブロック長</td> <td>川嶋会長</td> </tr> <tr> <td>青少年委員代表所見</td> <td></td> <td>伊藤委員</td> </tr> <tr> <td>総評</td> <td>足立区教育委員会 教育委員</td> <td>土肥和久氏</td> </tr> </table>			司会		三枝委員	主催者挨拶	6ブロック長	早川邦夫	会長挨拶	足立区青少年委員会 会長	高橋会長	来賓挨拶	足立区教育委員会 教育委員	土肥和久氏	来賓紹介		三枝委員	講話	長門小学校長	細山校長	講話	蒲原中学校長	菊本校長	PTA代表所見	小P連第6ブロック長	川嶋会長	青少年委員代表所見		伊藤委員	総評	足立区教育委員会 教育委員	土肥和久氏
司会		三枝委員																															
主催者挨拶	6ブロック長	早川邦夫																															
会長挨拶	足立区青少年委員会 会長	高橋会長																															
来賓挨拶	足立区教育委員会 教育委員	土肥和久氏																															
来賓紹介		三枝委員																															
講話	長門小学校長	細山校長																															
講話	蒲原中学校長	菊本校長																															
PTA代表所見	小P連第6ブロック長	川嶋会長																															
青少年委員代表所見		伊藤委員																															
総評	足立区教育委員会 教育委員	土肥和久氏																															
テーマ	「12年振りの生徒指導提要の改定に伴う教育現場の変化」																																
<p>【懇談会記録】</p> <p>「12年振りの生徒指導提要の改定に伴う教育現場の変化」をテーマに、土肥教育委員、各校校長先生、副校長先生、PTA会長を招いて、長門小学校体育館にて教育懇談会を開催しました。</p> <p>懇談会では、校長先生お二方から、テーマである生徒指導提要に関する講話をいただいた後、各校PTA会長代表、青少年委員代表から、それぞれの所見を発表。さらに土肥教育委員から総評をいただく形で進みました。</p> <p>各関係者と情報交換しながら活動していくことの大切さを改めて確認できる有意義な時間となりました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>																																	



令和6年度 足立区青少年委員会 第7ブロック教育懇談会

開 催 日	令和6年7月4日	会 場	足立区立中川北小学校体育館																						
時 間	17:00～18:30																								
参 加 者	足立区教育委員会 教育委員 倉橋さとみ 様 足立区教育委員会 青少年課長 物江耕一郎 様 足立区青少年委員会 高橋会長・松崎副会長・前島ブロック長 (第5ブロック) 都立足立東高等学校、区立おおやたこども園、第12中学校、 第13中学校、谷中中学校、中川小学校、中北小学校、中川東小学校、 辰沼小学校、六木小学校から各校の校長先生・開かれた学校づくり協議 会・PTA会長、主任児童委員、スポーツ推進委員、 第7ブロック青少年委員 計46名																								
会 議 次 第	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;"></td> <td style="text-align: right;">司会 伊藤 委員</td> </tr> <tr> <td>開会の辞</td> <td style="text-align: right;">伊藤 委員</td> </tr> <tr> <td>当ブロック長挨拶</td> <td style="text-align: right;">三橋 委員</td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会挨拶</td> <td style="text-align: right;">高橋 会長</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶 足立区教育委員会教育委員</td> <td style="text-align: right;">倉橋さとみ様</td> </tr> <tr> <td>来賓紹介</td> <td style="text-align: right;">木村 委員</td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会参加者紹介</td> <td style="text-align: right;">木村 委員</td> </tr> <tr> <td>各校の発表 (テーブルディスカッション形式)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加校代表</td> <td style="text-align: right;">足立区立中川北小学校校長 加瀬幸司様</td> </tr> <tr> <td>閉会の辞</td> <td style="text-align: right;">西村 委員</td> </tr> </table>				司会 伊藤 委員	開会の辞	伊藤 委員	当ブロック長挨拶	三橋 委員	足立区青少年委員会挨拶	高橋 会長	来賓挨拶 足立区教育委員会教育委員	倉橋さとみ様	来賓紹介	木村 委員	足立区青少年委員会参加者紹介	木村 委員	各校の発表 (テーブルディスカッション形式)		質疑応答		参加校代表	足立区立中川北小学校校長 加瀬幸司様	閉会の辞	西村 委員
	司会 伊藤 委員																								
開会の辞	伊藤 委員																								
当ブロック長挨拶	三橋 委員																								
足立区青少年委員会挨拶	高橋 会長																								
来賓挨拶 足立区教育委員会教育委員	倉橋さとみ様																								
来賓紹介	木村 委員																								
足立区青少年委員会参加者紹介	木村 委員																								
各校の発表 (テーブルディスカッション形式)																									
質疑応答																									
参加校代表	足立区立中川北小学校校長 加瀬幸司様																								
閉会の辞	西村 委員																								
テ ー マ	『学校と地域を愛する心をどう育むか』																								
【懇談会記録】 中川小学校 : 校長 土屋様 ・ 良い事だけではなく、悪い事も積極的に教える ・ 交通安全で最初は挨拶してくれなかったがこちらから挨拶をしていたら 挨拶をしてくれるようになった。 ・ 地域のイベントに積極的に参加する ・ 小学校OBは恩返しできる環境を作る ・ 普段の活動が地域を育む ・ 今年は校庭デイキャンプをやる、OBもボランティアで参加																									

中川東小学校・おおやたこども園 : スポーツ推進委員 加藤様

- ・地域の良さを大人が伝える
- ・お祭り、イベントを通して子ども達に興味を持ってもらう
- ・学校、戻れる場所、思い出を作る、それが子ども達の帰れる場所になる
- ・タイムカプセル20年後に参加、連絡（SNS等）で多く集まった

中川北小学校 : 校長 加瀬様

- ・行事復活の折、児童だけでなく保護者を巻き込む
- ・学校と地域が連携してお祭り盆踊りなどに参加する

辰沼小学校 : 校長 岩淵様

- ・イベント等積極的に参加子ども達とふれあう場を作る
- ・学校は心のよりどころになるように子ども達に伝える
- ・地域にどういう人がいるのか知ってもらう
- ・居住者を巻き込んだやり方や防災というテーマ、地域、学校

六木小学校 : 校長 河野様

- ・木工教室や折り紙教室などを開催して子ども達とのふれあいの場作る
- ・地域のイベントに積極的に参加
- ・地域と学校が一体となって子ども達の場所づくりをした
- ・講師は地域の方がやってくれたこと
- ・昔はカップフェスタを年40回、今は8回、去年は2回しかできなかった
読み聞かせ、百人一首、パソコン教室、将棋など

第12中学校・足立東高校 : 校長 千葉様

- ・不登校の問題、SNS問題に積極的に取り組む
- ・地域のイベントに参加してお手伝いをする

・学校は対応をたくさん考えているが難しい問題、PTAにも
参加してほしい

・学校を楽しめる子どもは地域とも密になれる気がする
そんな経験があると地域に戻ってくる

谷中中学校 : 校長 三輪様

・子ども達に地域の行事への参加を呼び掛ける

・学校で行なう行事を地域の方にも参加を促す

今年は白鷺祭を開催予定

・コロナで間があいていたこともあり集まりが悪くなっている

・学校公開は地域の方も参加できるようにしている

・子ども達とのふれあいの場を作っていけばいいが、地域の方となかなか
つないでいく事が出来ない

・あいさつ運動を開かれた協議会より表彰され、実感が沸く

第13中学校 : 校長 菊間様

・学校、生徒、地域の連携が大事

・毎年、地域の方々と連携して、「あしの芽祭」というお祭りを実施して
地域、学校、生徒の結びつきを強めていくイベントとなった

自由な意見交換のできる場所でもある

質疑応答

松崎副会長 : 地域とのつながりが大事

前島ブロック長 : 子ども達への挨拶、声掛けをしっかりとる事が大事

物江課長 : 学校をとりまく地域等のイベントの協力をしっかりとやる

令和6年度 足立区青少年委員会 第8ブロック教育懇談会

開 催 日	令和6年7月18日	会 場	勤労福祉会館（プルミエ） 第2洋室
時 間	18時30分～19時30分		
参 加 者 (敬称略)	<p>講師 公益財団法人音楽文化創造 常務理事 事務局長 揚石 明男 足立区教育委員会 教育委員 倉橋 さとみ 足立区教育委員会学校運営部青少年課長 物江 耕一朗 足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治 足立区青少年委員会 副会長 山田 直美 足立区青少年委員会12ブロック長 原田 勉 [青井小学校] 校長 鯉沼 哲/P T A会長 安田 直人 [加平小学校] 副校長 奥田 孝司/P T A会長 大久保 孝雄 [栗島小学校] 校長 小野 昌徳/P T A会長 星野 宏文 [東栗原小学校] 校長 伊地知 広竹 [平野小学校] 校長 小用 昇/P T A副会長 植松 公彦 [青井中学校] 校長 菊入 伸二/P T A会長 倉谷 広章 [栗島中学校] 校長 豊崎 努/P T A副会長 青木 もみじ [東島根中学校] 校長 大瀧 訓久/P T A副会長 伊藤 法哉 [青少年委員] 鈴木 奏子 嶋田 健一 杉村 吉紀 濹谷 義光 小野 明 本田 隆志 染谷 高志 米永 博【計29名】</p>		
会議次第	<p>*主催者挨拶 足立区青少年委員会第8ブロック長 鈴木 奏子 *青少年委員会代表挨拶 足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治様 *来賓挨拶 足立区教育委員会青少年課 課長 物江 耕一朗様 *学校長挨拶 栗島中学校校長 豊崎 努様 *講演 テーマ『地域と学校の連携：部活動における新たな指導』 講師 公益財団法人 音楽文化創造常務理事・事務局長 揚石 明男様 意見交換（ファシリテーター 第8ブロック 嶋田 健一） *講評 教育委員会教育委員 倉橋 さとみ様 *閉会のことば 足立区青少年委員会 第8ブロック 本田 隆志</p>		
テ ー マ	『地域と学校の連携：部活動における新たな指導』		
<p>[懇談会記録] 【講演】 公益財団法人音楽文化創造は、地域の音楽文化振興とその人材育成、生涯音楽学習の環境整備を行っている。同法人は令和5年度文化庁文化部活動改革を受け、部活動の地域移行に向けた以下の委託実証事業を行った。</p>			

① 地域の受け皿構築に関する調査研究

全国7団体が構築した実施主体への支援と実態調査を行った。

② 地域の部活動指導者の育成カリキュラムの開発

楽器の演奏など専門的、技術的なことではなく指導者として最低限必要なことをまとめたミニマム・スタンダードな内容とする。

上記の実証事業の参加団体からの報告では、メリットとして、

- ・学校教員の負担が削減された
- ・専門家からの適切な指導が受けられ、技術が向上した
- ・他校の生徒との交流により友人が増えた
- ・いつもと違う環境で良い刺激を受けモチベーションが上がった
- ・合同練習で大編成での合奏が出来た

という報告がある一方、課題として、

- ・場所の問題：教室の休日使用は教員立ち合いが必要、学校外での大型楽器の移動
- ・指導者の問題：適切な指導者の人員確保
- ・練習方法の問題：顧問との連携、コンクール対応、会場移動
- ・費用の問題：指導者の謝金、会場費、楽器維持費、移動/運搬費他

があるとの報告があった。

これらの問題解決のポイントとして講師より以下をご教示いただいた。

- ・教育委員会と学校及び地域との連携体制構築が不可欠
(平日は学校で顧問教諭との練習 土日は専門家からのレクチャーを受けるなど)
- ・指導者の量、質の確保は都や自治体で行う(部活動指導員、外部指導員)
- ・講師への謝金は必要なので、参加人数が少ないと受益者負担額が大きくなるため、単独の学校での計画は難しく、広く参加者を募り人数を確保することが成功につながる。

【意見交換】

参加している中学校より部活動の現状を報告いただいた。いずれも小規模校で、生徒、顧問の数により活動が困難な状況であるが、それぞれ問題解決に向けて取り組んでいる。意見交換後、今後も地域との連携を深めていくという意識を参加者全員で共有した。

栗島中

関東信越地区中学校校長会 研究協議会(水戸市で開催)に出席。研究テーマに部活動も掲げられていたが、地方では部活動指導者不足が深刻で、令和8年に外部への完全移行を目指しているところでは行政、学校ではかなりの熱量で推し進めているようである。どこでも受け皿を確保するのが問題点である。

青井中

全校でクラスが5クラスしかない小規模校なので部活の人数も少なく活動は厳しいが、ダンス部で部活動指導員を導入しており、土日の引率でも教員がいなくても対応できている。また顧問は二人体制として、どちらかがいなくてもできるようにし、教

員の負担軽減を考えている。

東島根中

野球部もサッカー部も現校長着任前に廃部となっていた。学級数も少なく、部活動の数も少ない。部活で上を目指したい生徒は、学校選択制なので特色ある学校へ行ってしまふ。教員の異動があるため、新たに部活をつくっても持続できる約束はできない。そんな中、地域活動のバドミントンを中学校も一緒にやらないか、という話があるので、今後更に話をしていきたい。

青少年委員杉村

地域で小学生の子ども90名コーチ25名のサッカーチームを運営しており、土日はほとんど試合である。中学で更に上を目指したい子どもは部活ではなくクラブチームに入るのが現状。小学校に部活動はないが、小学校の課外活動に代わる活動として地域に貢献している。

令和6年度 青少年委員会 第9ブロック 前期教育懇談会

開催日	令和6年6月27日(木)	会場	花畑記念公園桜花亭
時間	第1部 18:00～、第2部 19:00～20:00		
参加者	早川教育委員、物江青少年課長、高橋会長、小林副会長、橋本10B長、 花畑小学校・花畑第一小学校・花畑西小学校・花保小学校・桜花小学校・ 花畑中学校・花畑北中学校・花保中学校の各校より校長・副校長・開かれた学校 づくり協議会会長・PTA3名・青少年委員		
次第	<p>1. 開会の言葉 司会：古川委員</p> <p>2. 主催者挨拶 眞田ブロック長</p> <p>3. 来賓挨拶 早川教育委員 高橋青少年委員会会長</p> <p>4. 来賓紹介 森委員</p> <p>【第1部】 司会：古川委員</p> <p>講話 1. 「令和6年度青少年課組織改正 青少年委員に求められる役割」 講師：物江青少年課長</p> <p>2. 「第9ブロック活動」 村上委員</p> <p>【第2部】 司会：芦川委員</p> <p>1. 乾杯 村田花保中学校校長</p> <p>2. 歓談</p> <p>3. 学校紹介</p> <p>4. くじ引き</p> <p>5. 中締め 小林副会長</p> <p>6. 閉会の言葉 芦川委員</p>		
テーマ	<p>「地域の架け橋 青少年委員」</p> <p>①令和6年度青少年課組織改正</p> <p>②青少年委員に求められる役割</p> <p>③第9ブロック活動</p>		

地域の関連団体をお呼びして教育懇談会を開催する事が出来ました。

第1部は、今年度も「地域の架け橋 青少年委員」をテーマとして青少年委員の役割や活動に理解して頂くべく物江青少年課長に講話を依頼しお話しして頂きました。更に第9ブロックの活動等の説明をし、参加された皆様に今後の活動の理解を得られたと思います。

第2部は、各校の学校紹介や情報交換を行った事で、今年度青少年課組織改正の目的である学校と青少年委員と開かれた学校づくり協議会・PTAの結びつきを強められる良い機会となりました。







◇生活困難世帯の現状

1. 世帯年収300万未満
2. 生活必需品の非所有世帯
3. ライフラインの支払い困難世帯

このうち1つでも該当すると足立区では生活困難世帯と定義する。

区立小学校1年生のうち16.7%の世帯が該当（令和3年調査結果より）

特徴として、1か月の読書数が3冊以下、運動する習慣がない、逆境を乗り越える力が弱いとされるが、地域活動に積極的に参加することで、これらのリスクが軽減する可能性がある。区立中学校2年生では21.7%の世帯が該当（令和4年調査結果より）だが、食習慣、虫歯は改善。ひとりで簡単な朝食が作れる、読書習慣は増加。運動習慣は維持。と成果も出てきている。事例として、あだちっ子歯科検診を実施（保育園幼稚園児全員が対象）や、ベジファースト野菜から食べよう、の取り組みにより生活習慣の改善が出来た。

高校生の場合、授業の理解度が低い、友人と直接的なコミュニケーションの機会が少ない、学校を辞めたくなるほどの悩みがある、という調査結果。リアルな関係よりもバーチャルの関係が増えているので心のよりどころを作ってほしい。

対策として、学校・家庭・行政の皆様と対話をしながら、勉強しながら議論ができる関係性を築き上げていきたい。親以外のもう一人の大人、もう一つの居場所として地域の繋がりが大切になっていく。実際何ができるか、子どもの声を聴く1日3分耳を傾ける、夏休み無償化（プール、学習室の開放）その情報を届けるという行動をおこしてほしい。

◎青少年委員の役割

行政・学校・地域のコーディネーター（連絡調整役）として、また、新たな青少年リーダーの育成や地域活動の応援、相談を行っているので、様々な団体と関わりのある青少年委員を活用してほしい。

◎各学校発表

◇湊江中学校（伊東校長） 今日全校集会で5つの実践を挙げた。

1. 生活習慣をしっかりと
 2. 学力の向上
 3. 生活体験の場を広げよう
 4. 健康の維持
 5. 地域の一員として自覚をもって生活をする
- 地域に出て人の役に立つことで自己肯定感を深めていくので声をかけて欲しい。

◇竹の塚中学校（宮地校長） 一人一人に寄り添う学校目指している。

今年度は人権教育に力を入れている。見た目には障害を持っている方の講演会を行った。人権意識を高める取り組みにそれぞれの学びがあった。また地域のボランティア活動が盛んであり、消防団の活動にも参加した。

◇六月中学校（宮下校長） 科学文部省のリーディングDXスクール事業指定校。またモデル事業として不登校対策の登校支援室設置の教育活動に力を入れている。

学習ボランティアとして小学生のサマースクールに参加。キャリア教育の一環として行っている。

- ◇竹の塚小学校（立野校長）登校見守りに多くの地域、保護者の方々来てくださる。登校時はじめは消極的だったが、中学生の挨拶をお手本に小学生も元気な挨拶になった。これからも挨拶の大切さを伝え続けたい。地域のお祭り、お楽しみ落語会、将棋教室、竹小まつり、キャンプやもちつきの行事が楽しみです。
- ◇中島根小学校（細川校長）地域の方々との関わりを紹介します。登校の見守り、放課後子ども教室による居場所づくり、また夏休みのプール見学者受け入れの協力を感謝しています。開かれとPTA協力のゲームまつりが大変盛況である。秋は音楽会で琴演奏を行うので音色を聞きに来てください。
- ◇渚江小学校（向山校長）足立区の外国語活動に力を入れコミュニケーション能力の育成を図っている。今年度からは国立教育政策研究所の教育課程実践検証協力校になり文部科学省の講師も来校。また学習発表会に向けて三年生の総合的な学習「この町大好きニコニコ大作戦」（地域の方々のことや自分たちに何ができるか調べる）に取り組んでる。
- ◇渚江第一小学校（古谷副校長）地域の方々に見守られ子どもたちが生活している。朝の見守りの方は保護者の相談にも乗ってくださり学校の方につないでくれる。「当たり前のこと当たり前でできる子」になろうと先生方とも頑張っています。
- ◇西保木間小学校（佐分利校長）開かれ、PTAの方々の朝登校見守りで竹の塚警察署から感謝状送られる。子どもたちが考えたスローガン「最後まで自分の思いを忘れずに 太陽のように笑顔で輝け」を掲げ、日々の教育活動や行事に取り組んでいます。校庭の人工芝化に伴い六年生最後の運動会スポーツフェスティバルを11月末に開催予定。
- ◇保木間小学校（北川校長）開かれでは学力向上のために漢検、算検のサポートして下さる。図書ボランティア花壇ボランティアには地域の方々が長年にわたり携わっている。放課後子ども教室ではスタッフの方々から活動日を増やしてはと提案をいただき9月から実施できる。子どものため子ども中心にと地域の方々が考えて動いてくださり感謝しています。

令和6年度 足立区青少年委員会 第11ブロック教育懇談会

開催日	令和6年7月11日	会場	第十四中学校 第二会議室	
時間	18:00～19:00			
参加者		教育懇談会		
		校長	副校長	PTA会長
	西新井第二小学校	小林 浩二	富岡 将人	中城 忠久
	西伊興小学校	金田 耕一	井上 智勝	×
	栗北小学校	石川 雅章	坂野 貴子	大塚 光智
	伊興小学校	川上 佳士	西村 昌紘	佐藤 雅憲
	東伊興小学校	藤原 かほり	江幡 隆志	井野瀬 優子
	第十四中学校	塚原 洋	松浦 勤	松村 優
	西新井中学校	石井 秀生	外川 鈴子	熊野 龍哉
	伊興中学校	森田 卓司	前田 俊夫	石井 正人
	青少年対策伊興地区委員会会長	元井 一壽		
	青少年委員会会長代理	松崎 顕治		
	青少年委員会副会長	関本 義則		
	青少年委員会 13ブロック長	前田 典彦		
	足立区教育委員	土肥 和久		
青少年課	白石係長			
会議次第	<p>司会：鈴島委員 開式挨拶：森岡委員 来賓挨拶：土肥教育委員 来賓挨拶：松崎会長代理 来賓紹介：磯委員 議題進行：酒井委員 地域の声パート（森岡委員） 各学校意見発表 総評：元井伊興地区対会長 閉会挨拶：島上委員</p>			

[懇談会記録]

昨年より検討していた、不登校をテーマに学校と地域で話し合いたく実施しました。

ディスカッションしやすいように、事前に各学校（今回は学校長）にアンケートを取りその集計結果を説明する事で他校の状況も分かり会話もしやすいと考えました。

アンケートはブロック内で検討し 10 の設問を作りました（以下）

- ① 全校生徒数と不登校の人数を教えてください。
- ② 貴校で発生している不登校のきっかけを教えてください。（複数回答可）
- ③ 不登校期間を教えてください。（複数回答可）
- ④ ヤングケアラーの可能性
- ⑤ メンタル的な症状で医師の診断を受けた事がある方の人数を回答ください。
- ⑥ 不登校者の SC 活用状況を教えてください。
- ⑦ 不登校者以外の SC 活用状況を教えてください。
- ⑧ 不登校対策で効果のあった内容を教えてください。
- ⑨ 不登校対策であまり効果の無かった内容を教えてください。
- ⑩ 学校名を記載下さい。

当然個人名は出さない、足立区教育委員会関連以外には出さない事を約

束させて頂きました、小学校5校は前向きに回答頂きましたが、不登校が多い中学校は、本音が出ていたかどうか疑問が残る結果でした、残念ながら1校は回答を拒否されました。

当日はアンケート結果をまとめたものに、登校サポーターをやっている森岡委員のコメントと独自に仕入れた不登校生の保護者からのヒヤリング内容をパワーポイントに纏め発表しました。

小学校は、資料も内容も非常に興味を持って頂き前向きな回答が多かったですが、中学校は不登校に対する対応に苦慮されている為か、難しい意見が多かったですが、各校がどの様に考えているかなどを知る良い機会になったかと思えます。

アンケートからも分かるように、小学校は不登校と言える子は少ないですが、中学校で一気に増えます。きっかけも多岐にわたる為、対処も多岐にわたります。唯一の共通の解決策は、子どもの居場所を作ってあげる事であり、学校に居場所がなくなると不登校になる傾向が見えます。

居場所であれば、地域にもある事を説明し、地域イベントに参加する子供はレジリエンスの向上が見られるという結果も出ていますし、不登校は学校だけの問題ではなく地域全体の問題である為、地域で協力して不登校を減らす、不登校の子供たちの居場所づくりを考えたいことを伝えました。

今後地域との連携を増やしていく事を各学校にお願いして終了としました。

総評を頂いた地区対会長からは、毎年の継続テーマとしてやって行く事を勧められました。



令和6年度 足立区青少年委員会 第12ブロック教育懇談会

開催日	令和6年7月13日(土)	会場	ギャラクシティ 第2レクリエーションホール																																														
時間	午後2時～午後3時30分																																																
参加者	足立区教育委員会 教育委員 久保田 善彦 様 青少年課長 物江 耕一朗 様 足立区青少年委員会 会長 高橋 将郎 様 副会長 嶋田 健一 様 第3ブロック長 丸山 昌子 様 [小学校] <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th> <th>校長</th> <th>PTA 会長</th> <th>青少年委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿浜五色桜小学校</td> <td>西澤 武</td> <td>中村 卓雅</td> <td>鹿濱 隆司</td> </tr> <tr> <td>鹿浜第一小学校</td> <td>中郡 英一</td> <td>大西洋 平</td> <td>原田 勉</td> </tr> <tr> <td>鹿浜未来小学校</td> <td>山下 宗孝</td> <td>本庄 一広</td> <td>渡邊 淳子</td> </tr> <tr> <td>皿沼小学校</td> <td>加藤 雅弘</td> <td>飯田 勝彦</td> <td>浅香 一浩</td> </tr> </tbody> </table> [中学校] <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th> <th>校長</th> <th>PTA 会長</th> <th>青少年委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿浜菜の花中学校</td> <td>水谷 正博</td> <td>笠井 健</td> <td>松崎 顕治</td> </tr> <tr> <td>加賀中学校</td> <td>難波 浩明</td> <td>斉藤 春枝</td> <td>鈴木 妙子</td> </tr> </tbody> </table> [小中一貫校] <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th> <th>校長</th> <th>区分</th> <th>PTA 会長</th> <th>青少年委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">新田学園</td> <td rowspan="2">小坂 裕紀</td> <td>小学部</td> <td>佐藤 由貴</td> <td>倉持 智光</td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td>中村 晋作</td> <td>前嶋 秀一</td> </tr> </tbody> </table>				学校	校長	PTA 会長	青少年委員	鹿浜五色桜小学校	西澤 武	中村 卓雅	鹿濱 隆司	鹿浜第一小学校	中郡 英一	大西洋 平	原田 勉	鹿浜未来小学校	山下 宗孝	本庄 一広	渡邊 淳子	皿沼小学校	加藤 雅弘	飯田 勝彦	浅香 一浩	学校	校長	PTA 会長	青少年委員	鹿浜菜の花中学校	水谷 正博	笠井 健	松崎 顕治	加賀中学校	難波 浩明	斉藤 春枝	鈴木 妙子	学校	校長	区分	PTA 会長	青少年委員	新田学園	小坂 裕紀	小学部	佐藤 由貴	倉持 智光	中学部	中村 晋作	前嶋 秀一
学校	校長	PTA 会長	青少年委員																																														
鹿浜五色桜小学校	西澤 武	中村 卓雅	鹿濱 隆司																																														
鹿浜第一小学校	中郡 英一	大西洋 平	原田 勉																																														
鹿浜未来小学校	山下 宗孝	本庄 一広	渡邊 淳子																																														
皿沼小学校	加藤 雅弘	飯田 勝彦	浅香 一浩																																														
学校	校長	PTA 会長	青少年委員																																														
鹿浜菜の花中学校	水谷 正博	笠井 健	松崎 顕治																																														
加賀中学校	難波 浩明	斉藤 春枝	鈴木 妙子																																														
学校	校長	区分	PTA 会長	青少年委員																																													
新田学園	小坂 裕紀	小学部	佐藤 由貴	倉持 智光																																													
		中学部	中村 晋作	前嶋 秀一																																													
会次第	[司会] 足立区青少年委員 渡邊 淳子 開会の辞 足立区青少年委員 浅香 一浩 足立区青少年対策鹿浜地区委員会 会長 主催者挨拶 足立区青少年委員会第12ブロック長 原田 勉																																																

会次第 《続き》	来賓挨拶	足立区教育委員会 教育委員	久保田 善彦 様
	会長挨拶	足立区青少年委員会 会長	高 橋 将 郎 様
	来賓紹介	足立区青少年委員会 事業部長	渡 邊 淳 子
	出席者紹介〔自己紹介〕		
懇談会進行	足立区青少年委員	倉 持 智 光	
	足立区青少年委員	鈴 木 妙 子	
閉会の辞	足立区青少年委員会 副会長	松 崎 顕 治	

テーマ	学校・PTA・青少年委員の連携体制を再考協議
-----	------------------------

[懇談会記録]

令和6年度の足立区青少年委員会第12ブロック教育懇談会は「学校・PTA・青少年委員の連携体制を再考協議」をテーマとして開催し、各校の校長およびPTA会長の皆様に参加していただきました。

今年度のテーマの設定趣旨は、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校行事・PTA 行事の運営スタイルを余儀なく変えることとなりましたが、この苦境の経験を機に、学校・PTA・地域とのコーディネーター役である青少年委員においても、従来からの慣習に囚われず、学校・PTA との連携体制を再考し、改善すべく見直しの転換期にあると思慮したためであります。

なお、本会の開催にあたり、校長・PTA 会長の皆様から事前にご提出いただいた「教育懇談会ヒアリングシート」に基づき、各校の青少年委員との連携に関わる課題（As-Is）を整理のうえ、要望・期待事項等（To-Be）に対する改善方針案を検討させていただき、第12ブロック青少年委員が、地域とのコーディネーター役として、従来からの活動に加え、より一層の役務を果たすための改善案（アクションプラン）を本会にて協議させていただきました。

[改善方針]（アクションプラン）

①定期的な3者懇談会の開催

校長・PTA 会長・青少年委員との3者が定期的（四半期に1回等）に情報交換を行う機会を設け、学校・PTA の抱える課題を整理し、助言やサポート等を行う。

②必要時に PTA 運営委員会へ参加

PTA 運営の円滑化および再活性化を目的とし、必要時には PTA 運営委員会へ出席し、PTA 活動に対する助言やサポート等を行う。

また、各校の校長・PTA 会長の皆様からは、地域とのコーディネーター役である青少年委員との連携に対する要望・期待等を発表していただき、①働き方改革の趣旨（教員が楽するためではなく、良い授業を行うための事前準備時間を確保するため）を正しく理解して助言やサポート等を行って欲しい、②登下校時の交通安全や放課後の見守り活動などについて、PTA・地域と連携した見守り方法について一緒に考えていただきたい等のお話しをいただきました。

今回の教育懇談会を通じて、学校・PTA・青少年委員の連携体制の更なる強化に向け、現状課題と要望・期待事項等を整理のうえ、今後のアクションプランの策定ができた事は、我々青少年委員にとっても大変有意義な会となりました。

《教育懇談会の様子》

原田ブロック長の主催者挨拶



久保田教育委員の来賓挨拶



高橋会長の会長挨拶



ご来賓の皆さま



司会：渡邊委員（事業部長）



開会の辞：浅香委員（鹿浜地区対会長）



進行役：倉持委員・鈴木委員



閉会の辞：松崎委員（副会長）



[協議の様子]





以上

2024年7月2日（教育懇談会）

各校の校長先生、副校長先生、生活指導主任、PTA会長、開かれた学校づくり協議会会長、町会長、自治会長、地区対会長、教育委員、青少年課の皆様をお招きして、テーマ『コロナ禍後の子どもたちの様子と不登校について』学校ごとに発表していただき、その後、ディスカッションを行いました。

各学校のコロナ禍後の子どもたちの様子を聞くと、小学校の方は、ほぼ子どもたちはマスクを外した生活になってきているが、中学校の方は思春期ということもあるのかほとんどの子どもたちがマスクを外せない状況で対照的な現状がありました。

給食に関しては、前向きなままで食べている学校と、コの字やロの字の形で食べている学校がありました。また課題として出たのは、体力の低下や運動能力の低下がみられているとの話も出ました。生活は日常に戻ってきているが、子供たちへの影響はまだ残っているのだと感じました。

また、不登校についての現状や取り組みについても各学校から発表をいただきました。

とてもデリケートな課題でしたが、各校とも正面から課題に向き合い真摯に取り組まれていることが伝わる発表とディスカッションになりました。

関係機関が一同に会して子どもたちの事を話し合えることは、とても貴重で有意義な時間だと思いました。

